

第91期決算公告

2026年6月26日

東京都江東区亀戸一丁目39番7号
多田建設株式会社
代表取締役 佐藤 俊也

貸借対照表（2026年3月31日現在）

（単位：千円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	32,571,452	流動負債	8,917,761
現金預金	17,749,113	電子記録債務	563,240
電子記録債権	1,067,330	工事未払金	3,449,966
完成工事未収入金	10,819,663	短期借入金	737,000
販売用不動産	238,962	一年内返済長期借入金	248,748
未成工事支出金	11	短期リース債務	55,863
不動産事業等支出金	2,354,956	未払金	259,473
未収入金	235,520	未払法人税等	938,347
その他	109,529	未払消費税等	280,648
貸倒引当金	△ 3,632	未成工事受入金	890,514
固定資産	5,528,325	不動産事業等受入金	970,000
有形固定資産	3,051,308	完成工事補償引当金	158,787
建物・構築物	1,408,087	賞与引当金	226,962
工具器具・備品	4,084	その他	138,213
土地	1,562,378	固定負債	4,846,394
リース資産	76,758	長期借入金	3,957,711
無形固定資産	71,317	リース債務	88,982
投資その他の資産	2,405,701	退職給付引当金	757,636
賃貸固定資産	481,897	その他	42,065
保険積立金	100,874	負債合計	13,764,154
投資有価証券	1,391,921	純資産の部	
その他関係会社有価証券	252,529	株主資本	23,858,535
長期貸付金	120,590	資本金	300,000
繰延税金資産	57,561	利益剰余金	23,558,535
その他	95,150	利益準備金	75,000
貸倒引当金	△ 94,821	その他利益剰余金	23,483,535
		繰越利益剰余金	23,483,535
		評価・換算差額等	477,088
		その他有価証券評価差額金	477,088
		純資産合計	24,335,623
資産合計	38,099,777	負債・純資産合計	38,099,777

個別注記表

【 重要な会計方針 】

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式……………総平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理）

時価のないもの……………総平均法による原価法

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

販売用不動産、未成工事支出金及び不動産事業等支出金…個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

材料貯蔵品……………先入先出法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産及び賃貸固定資産（リース資産を除く）……………定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・設備・構築物 7～47年

工具器具・備品 4～20年

賃貸固定資産 10～47年

② 無形固定資産（リース資産を除く）……………定額法

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

……………リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保に要する費用に備えるため、過去の実績等に基づき将来の見積補償額を計上しております。

③ 工事損失引当金

受注工事の損失に備えるため当事業年度末における手持工事のうち、損失の発生が見込まれるものについて、損失見込額を計上しております。

④ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づく当事業年度負担額を計上しております。

⑤ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、その発生時の翌事業年度において一括損益処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（1年）による定額法により処理しております。

⑥ 役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく役員に対する当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込み額に基づき計上しております。

(4) 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当社は主に建造物の工事を顧客から請負い、当該建造物を顧客の指示のもと顧客の求める仕様に合うように施工を行い、当該建造物の完成後に顧客に引渡す履行義務を負っております。完成工事高の計上は、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合（3ヶ月）を除き、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識しております。なお、一定の期間にわたり収益を認識する工事の期末における進捗度の見積りは原価比例法によっております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税および地方消費税に相当する額の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等は発生事業年度の期間費用としております。